



当日のヤリイカ仕掛け
竿=アルファタックル・海人ヤリイカ70MH
イカリングDRB 幹糸=フロロカーボン5号 枝糸=同3号
ウキスツテ17cm ※ツノ数は8本
オモリ=150号
2000
リール=ビーストマスター

•Tackle Guide
ヤリイカ釣りに初チャレンジする場合は手前マツリをなく、毎投確実に投入できるようにツノ数4本からスタートすることが3~4本からスタートする。おススメする。

すると直後に左舷のお二人が2杯ずつゲット。回り直すと今度は右舷の稲村さんが2杯取り込む。

仕掛け交換が奏功
空振りの流しもあったが再び稲村さんが乗りをキヤッチ。「デカイよ!」と取り込まれたヤリイカはタルからはみ出る見事なパラソルサイズだ。私はというと朝のマルイカ以降釣果はなく、やっと乗ったと喜んだのも束の間、上がってきたのはスミツキアカカチだったりと苦笑いでごまかすのが精一杯な状態。



▲春の海は恋の季節。目下白浜沖で釣れているメスのヤリイカを追って大型のオスが回遊してくる可能性はある

秋から春までロングランでヤリイカ釣りが楽しめる南房エリア。例年と比べると今シーズンの釣況は今一つ盛り上がりには欠けているようだ。しかし過去のデータをめくってみると、連日のようにトップ1束を超えるような釣果が記録されるようになるのは3月に入ってから。

3月下旬ごろから盛り上がりつつくるのが例年のパターンのようなのだ。久びさのヤリイカに出かけたのは3月中旬の日曜日。南房布良港の良和丸を訪れた。

朝一は快調な滑り出し
早朝5時半、私を含む4名が船着き場に集合。左舷に2人、右舷ミヨシに1人が入り、

大型フイバーはもうすぐ!?! 復調期待!白浜沖のヤリイカ

●南房布良港発↓白浜沖

本誌ABC(東京) 椎名義徳 Yoshinori Shimizu

乗りはしなかったが、数回のシャクリ上げ後のポーズでクツと竿先にお触りの感触。すかさず合わせるとクイクイ1ツと乗った。ゆっくりと道糸を手で引き出しながら送り込み、オモリが着底したところで今度は手巻きでゆっくり巻き上げ、10

沖揚がりまでの残り時間もあとわずか。今日はおいしいヤリイカをよりおいしくいただくようと、生かして持ち帰るための大型クーラーとエアポンプを持参してきたというのに、このまま何も入れることなく下船することになれば赤面ものだ。

いくら釣況が芳しくないとはいえ、この差はなんなのか? 流し変えのタイミングで皆さんの使っているツノを拝見し仕掛けをチェンジしてみた。

仕掛け変更後の1投目、着乗りはしなかったが、数回のシャクリ上げ後のポーズでクツと竿先にお触りの感触。すかさず合わせるとクイクイ1ツと乗った。ゆっくりと道糸を手で引き出しながら送り込み、オモリが着底したところで今度は手巻きでゆっくり巻き上げ、10



▲活性の高い群れに当たれば多点掛けも

私は空いていた右舷トモへに入った。準備が整ったところで志村良一船長の舵取りで午前5時50分に出船。ナギの海を航行することおよそ30分でポイントの白浜沖に到着。潮回りを済ませると、「どうぞ! 水深135メートル。下から5メートルくらいまでやってみてください」とのアナウンス。手に持った150号のオモリを投げ入れると、スコッスコッと投入器から勢いよく8本のツノが放たれていく。朝のうちにはサバに邪魔されることが多いのだが、仕掛けを止められることなくオモリが着底した。仕掛けが底まで下りれば期待は着乗りだ。糸フケを取りシャクリを入れて竿先を注視する。乗った!...のは私ではな

く左舷トモの新納さん。左舷ミヨシの東条さんにも乗ったようで竿を脇に抱えて巻き上げモードに入っている。「1杯だけだと思いますよ」と謙遜気味の新鮮なミヨシの東条さんも幸先よくヤリイカを釣り上げた。サイズは胴長20~25センチの中型といったところ。刺身で食べるには一番おいしいサイズだ。流し直した次の一投でも着乗りはなかったが、数回シャクリ上げた後、20メートルほど巻き上げて再び仕掛けを落とし込む巻き落としをしたところ、竿先にビクビクとアタリが出た。ヤリイカであればもう少しフワフワとしたアタリが出るのだが、ともあれ生体反応であることは間違いない。上がってきたのはヤリイカにしてはゲソが太め...なんとうれしいゲストのマルイカだった。

●船宿information
南房布良港
良和丸
☎0470・28・2965
(詳細は巻末の情報欄参照)

志村良一船長

▶料金=ヤリイカ乗合一人1万1000円(氷付き)
▶備考=予約乗合、4月から5時15分集合。ほかシマアジへも出船

期待される。また春シーズンは突如としてのスルメイカの回遊もある。仕掛けは11、14、18センチと各サイズを用意したほうがよいだろう。

知得! 当日の当たりツノ
Tips and Tricks

沖揚がり直前まで私だけが蚊帳の外だったが、釣っている皆さんの仕掛けの共通点を発見。そして皆さんと同じツノの仕掛けにチェンジしたところ、一撃で4杯掛けを達成することができた。そのツノとはPPオーロラ角。ベースはヤマリアのピッカピカ針でオーロラのように虹色に反射する加工が施されたツノだ。イカ釣りに特化した釣具店として知られているフジモリ・フィッシング・タックルのオリジナル商品である。

▶オーロラカラーがヤリイカに効く!

次の流しても東条さんと右舷ミヨシの稲村さんに1杯ずつヤリイカが上がる。地味な拾い釣りだが、このペースならそこそこの釣果は得られそう。ただし、皮算用とはよく言ったもの。その後はシャクリとシャクリとイカからのラブコールは届かず、修行のような釣りとなってしまった。潮色も夏の潮のように澄み切っており、上潮だけが速い二枚潮。そこで船長は、水深180~210メートルの深みへブチ移動。

●いいな よしのり/同じ新鮮さでも生きているものそうでないものでは透明感も食感もまるで違いますね。家族は大感激。生かして持ち帰ったかがありました。